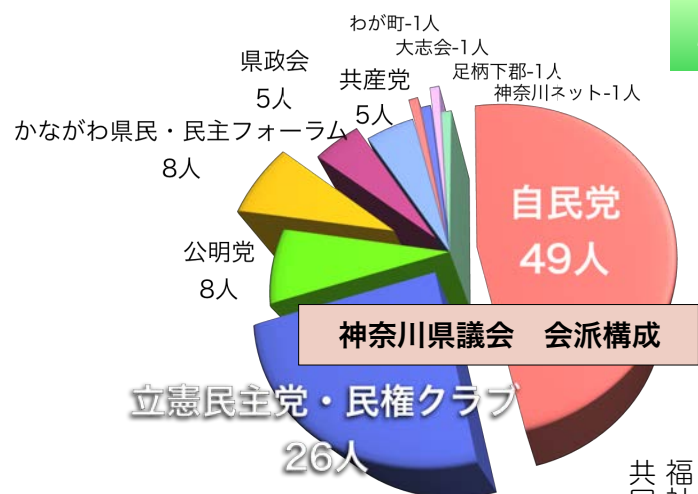




2019年神奈川県議会第2回定例会

女性県議比率の推移			
年度	女性議員数	比率	全国ランキング
2019年	19	18.1%	3
2015年	17	16.2%	4
2011年	14	13.1%	9
2007年	11	10.3%	11
2003年	10	9.4%	10

当選して初めての議会が行われました。
神奈川県議会は定数105人。そのうち、女性議員は19名。全国では3位。
また、私が所属している会派「立憲民主党・民権クラブ」26名で、県議会の中では2番目に大きな会派となりました。わが会派の新人議員は11名。女性議員は6名（うち新人議員は4名）です。
県議会では、本会議のほかに分野ごとに詳しく調査をする8つの常任委員会と、5つの特別委員会があります。私は、社会福祉、社会保障、人権及び男女共同参画、次世代育成、

8つの常任委員会

- 総務政策常任委員会
- 防災警察常任委員会
- 国際文化観光・スポーツ常任委員会
- 環境農政常任委員会
- 厚生常任委員会
- 産業労働常任委員会
- 建設・企業常任委員会
- 文教常任委員会

私が属しているのはココです。

私学、保健医療、生活衛生、そのほか福祉子どもみらい局や健康医療局の仕事について審査する、厚生委員会に所属しました。また、「ともに生きる社会かながわ」推進特別委員会に所属しました。
また、県議会では会派ごとに代表質問や一般質問の人数が決まっているために、今回、議場に登壇する機会はありませんでしたが、先輩議員の補助者として、質問のサポートをさせていただきました。大変勉強になりました。
初めてのことばかりでとても緊張した第2回定例会。県西初の女性議員として、市民の皆様の信託に応えるべく、第3回定例会も全力で頑張ります！



行った！
見た！
聞いた！

そして、もう一つ私が注目しているのは、自転車持ち込みの緩和。できたら、折りたたまないでそのまま乗車できる車両を導入してほしい。
今自転車が熱

目しているのは、もう一つ私が注目しているのは、自転車持ち込みの緩和。できたら、折りたたまないでそのまま乗車できる車両を導入してほしい。
今自転車が熱

山北町の生涯学習センターへ伺い、御殿場線利用推進協議会の総会に、協議会の顧問として参加いたしました。
御殿場線は、田島出身の私の原風景です。
もっと便利になつてほしいし、もっと活用しないと本当にもったいないと思います。



5/30

山北町の生涯学習センターへ伺い、御殿場線利用推進協議会の総会に、協議会の顧問として参加いたしました。

8/17

8月17日は、今年で15回目となる「8月15日を考える会」主催の講演会に実行委員として参加。私は司会を務めさせていただきました。今年は「満蒙開拓団」をテーマに、戦争と女性の人

<http://gotenbasen.net/>

い！御殿場線の出発駅である国府津には、スポーツサイクルの専門店もできたし、自転車愛好家のちょっとした溜まり場となっています。
とくに、梅林、田園、四季折々の自然が楽しめる御殿場線沿線は、自転車で巡るのが絶対楽しい！インバウンドも含めた観光客の増加が期待できるのではと考えています。
御殿場線の利活用については、協議会が運営するHPもあります。ぜひご覧ください。



権、そして、プロパガンダの歴史を考える企画。
講師は、長野県の満蒙開拓記念館の事務局長、三沢亜紀さんと、近現代女性史研の池川玲子さん。講師は必ず女性、と決めているこの会は、今回も満席。内容もとても有意義でした。
戦争と女性の人権は、何も韓国の慰安婦問題だけではありません。敗戦直後の旧満州で、侵攻してきたソ連兵から、開拓村を守るために性接待に差し出された若い女性たち。
高年齢になり勇気を
もって
やっと声をあげることができた女性達の叫びのような「告白」が記念館の活動を通して広がっています。
戦争を知る世代が減る中でなぜこんな酷いことが起こるのかを、共有する時間となりました。



8/19

8月19日から21日は、私が所属する立憲民主党・民権クラブ県議団の厚生員会のメンバーと、環境農政委員会のメンバーで合同視察に行つてまいりました。1日目は長野県へ、子どもへの貧困対策、やまほいく事業、種子条例についてをヒヤリング。2日目はやまほいく事業の見学と甲府にてフードバンク山梨の取り組み。3日目は市で最先端のスマート農業を行っている「アグリマインド」の農業を見学。どれも今、神奈川県西にとって重要なテーマ。学びをしっかりと県政に生かしていきます！



	県からの支給	市町独自の支給
横浜市	X	○
川崎市	X	○
相模原市	X	○
横須賀市	X	○
平塚市	X	○
鎌倉市	X	○
藤沢市	○	○
茅ヶ崎市	○	○
三浦市	X	X
秦野市	X	○
厚木市	○	○
大和市	○	○
伊勢原市	○	○
海老名市	—	○
座間市	○	○
南足柄市	X	X
綾瀬市	○	○
小田原市	○	○
箱根町	X	X
湯河原町	X	X
真鶴町	X	X
開成町	X	X
山北町	○	X
大井町	X	X
中井町	X	○
大磯町	X	X
二宮町	X	X
寒川町	X	X
松田町	X	X
葉山町	X	○
愛川町	○	X
清川村	X	○

神奈川県議会第3回定例会

	会議名	備考
9月6日	議会運営委員会 提案説明	
9月11日～13日	本会議	代表質問
9月18日～24日	本会議	一般質問
9月25日	議会運営委員会	
9月27日～10月2日	常任委員会	
10月4日	特別委員会	
10月10日	常任委員会	全委員会
10月11日	決算特別委員会	
10月15日	議会運営委員会	
10月17日～11月7日	決算特別委員会	
11月18日	議会運営委員会	
11月28日～12月2日	本会議	代表質問
12月4日～5日	本会議	一般質問
12月9日～10日	常任委員会	
12月11日	特別委員会	
12月13日	常任委員会	全委員会
12月17日～18日	議会運営委員会 採決日	

福祉施策の地域間格差について

障がいのある方たちが、施設や病院から地域へと移行するための受け皿であるグループホーム。家賃補助等の直接的な補助は非常に有効です。現在、神奈川県では、障害者支援施設等から地域生活に移行した場合に限り、家賃の一部を市町村と連携して上限2万円、最長3年の補助をしています。その活用状況も、県内の市町村でバラバラ、また在宅からグループホームに移行した場合の補助はありません。

委員会の中では、グループホームへの家賃補助がない市町村が県内で11か所もあることが明らかになりました。そして、それは県西地域に集中していることも！施設から地域へ、という障がい者の地位移行に関しては、ともに生きる社会を掲げる本県としてどこに住んでも、障がいのある方たちが安心して地域で暮らしていける体制を作るべきです。真の「共に生きる社会かながわ」の実現のため、障がい者福祉の地域間格差の解消を求めました。



https://kanagawa-pref.stream.jfif.co.jp/?tpl=play_vod&inquiry_id=1514

神奈川県のホームページから、各委員会

9月24日午後3時より
佐々木ナオミ、一般質問に立ちます！ぜひ傍聴にいらしてください！！

常任委員会・特別委員会で質問しました！

地域医療の東西格差と小田原市立病院について

神奈川県は、神奈川県医療保健計画において公立病院等の機能強化を支援することが位置付けられております。現在小田原市では、小田原市立病院の建て替えが基本設計予算が議会を通るなど具体化していますが、県西地域の医療の質を確保するため、小田原市立病院への支援策を質問。

また委員会の中で、県西地域では医師不足が神奈川県内でも特に深刻となっていることも明らかとなりました。

特に、産科・産婦人科の充足率は68%、麻酔科に至っては24%と極端に低く、夜間の緊急手術が地域内で困難な状態です。女性医師の復帰策や、寄付講座を地域を限定して行うことなども含め、医師の確保策についても、県西地域の市町村と検討すること。足柄上病院と小田原市立病院という県西地域の2つの基幹病院を中心としたハードとソフト、両面での対策に、地元関係機関と丁寧な話し合いを行い、しっかりと取り組んでいただくことを求めました。

	10万人あたりの医師数	実数
神奈川県	213.0	19,476人
県西部	168.7	585人
全国平均	233.6	319,480人

インクルーシブ教育の推進について

障害のあるなしに関わらず、すべての子どもができるだけ通常の学級で共に学びながら、一人ひとりのニーズに応じた指導・支援を受けられることができる「インクルーシブ教育」。

「ともに生きる社会かながわ憲章」を掲げる本県では、インクルーシブ教育の推進に力を入れていきます。特別委員会ではその取り組み状況が報告されました。

神奈川県独自の取り組みとして、県立高校で知的障がいのある生徒と一緒に学ぶ「インクルーシブ教育実践推進校」。これまでパイロット校3校（そのうち、県西地域では足柄高校で実施）での実施でしたが、令和2年度からは14校に広がります。

その際重要なのは、小中学校でのインクルーシブ教育の取り組み状況です。現在、小学校では様々な取り組みが行われていますが、中学校ではなかなか取り組みにくい状況があります。

インクルーシブ教育を進めていくためには、一人ひとりの支援の内容を決定したり、先生方や保護者の相談にも対応する教育相談コーディネーターの役割は重要で、す。しかし、多くの先生が学級担任と兼務しているため、十分に対応できていません。県では、コーディネーター業務にあたる時間を

インクルーシブ教育推進実践校（14校）

高等学校	通学区域
城郷高等学校	横浜市・川崎市
霧が丘高等学校	横浜市・川崎市
川崎北高等学校	川崎市
上矢部高等学校	横浜市
津久井浜高等学校	横須賀市・鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市・逗子市・三浦市・葉山町・寒川町
湘南台高等学校	
茅ヶ崎高等学校	
二宮高等学校	平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町・南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町
伊勢原高等学校	
足柄高等学校	
厚木西高等学校	
綾瀬高等学校	相模原市・厚木市・大和市・海老名市・座間市・綾瀬市・愛川町・清川村
上鶴間高等学校	
橋本高等学校	

確保するために、後補充の非常勤講師を配置していますが、コーディネーターの仕事量は、決して少なくないこと、今後ますます増えるであろうニーズを考慮すると、専任化すべきと訴えました。